

# えびっぴ

立川と語ろう 立川に生きよう

August 2016

Écoutez Bien Vol.35 No.381

8

日本相撲協会 八角理事長登場!



# 外人ハウス

今号表紙のモデル

赤川BONZEさんご一家は

ハウスの住人

自由な空気がアートを育む

「ハウス」といえば立川では、国営昭和記念公園砂川口に近い平屋の白壁住宅群が有名だ。「アメリカ村」とも「バンブーハウス」とも呼ばれるアメリカンハウスだが、今日ご紹介するのはそこではない。高松町に残るアーティストの工房群、「ハウスX-Area」だ。

年に1回この場所で開かれるイベント《House de Art》には、立川市外からも多くの人やってくる。モノレール下のサンサンロードや商店街の催しなどに人がたくさん集まってくるのは当然といえば当然。しかし「ハウスX-Area」はプライベートエリアである。普段は入れない、そこが魅力で人は集まるのだろうか。

お天気のいい5月の土日。今年も無事に第8回目の開催を迎えていた。ギターや弾き語りの前に椅子が並び、お客様が熱心に聴いている。誰も立つ風でもなく、見渡すと各家の前で住人がそれぞれにお店を開いている。買ってもし、買わなくてもいい。食べてもいいし、食べなくてもいい。好きな場所で好きなように時間を楽しむ雰囲気が楽しい。

普段の「ハウスX-Area」はとても静かな住宅地。戦後、立川駅周辺にキャディラック、シボレー、ポンティアックといった外国車が行き交い、ジャズやジーンズも立川から流行ったと言われた時代があった。立川基地の米兵やその家族のために、市内にいくつもの外人ハウスが建てられた。「ハウスX-Area」もそのひとつ。1960年ころに仮設住宅として建設されたものだそうだ。「小さなまとまった集落、コミュニティが自然にできあがるようなアイデアをいくつも有したすばらしいゾーニング。考えてみたら、これって幌馬車隊だよ」と長くここに住む赤川BONZEさん。幌馬車隊？西部劇によくある幌馬車隊の野営を思い浮かべる。真ん中の火を囲むように幌馬車をサークル状に配置する。「ハウス」を振り返ってみると、真ん中に共同利用する道路。知らない人はめったに入ってこない。その道路をはさんで各戸が向かい合い、庭を持ち、ガレージを有する。日本の下町に見られる長屋のような空気感。自由な仕様で使えて、プライバシーが保たれる。当時、新進気鋭のアーティストたちが放っておくはずなかった。

住宅会社が家を建て、街を創って提供してくれる時代。共同利用の道があって庭もある。「ハウスX-Area」のような自由な空気は、そこに生まれているのだろうか。



X-Areaの普段の様子



House de Artの様子



泉町、住宅展示場付近にあった外人ハウス（平成2年 武田和紀さん撮影）

# これからの 日本文学研究

## グローバルを考える

グローバル時代を迎えた日本文学研究のこれからを  
国文学研究資料館の館長に語ってもらった

### 真のグローバルとは

世の中は今、なんでも「グローバル」になっていますね。ふた昔ほど前までは国内中心の日本史や日本文学の研究でしたが、近ごろは国際的な共同研究をいろいろなところでやっています。国文研でももちろんやっていますし、他の大学でもやっています。国際交流ということで、外国でシンポジウムをしたり、あるいは外国人研究者を日本に招いて国際シンポジウムをしたり。外国人研究者が交って確かに「国際」なのですが、ここにひとつ問題があります。それは、参加する外国人研究者はみんな日本語に堪能な研究者だということです。一方、こちら側は英語もフランス語もほとんど使えない。それはかなり偏った国際交流なのではないかと、以前から思っていました。本当の、50/50の国際交流とは言えないのではないかと。

ふりかえって私たち日本人の外国文学に対する態度はどうだったか。フランス語やドイツ語、ロシア語が読めなくても、バルザックやジッド、ゲーテ、トルストイなどを翻訳で読んで感動してきました。それと同じように海外にも日本語は読めないけれど日本文学に感動している人はいるのではないと思うのです。日本文学を英訳や仏訳で読んで興味や関心を持つ人は少なくないと思います。ところが、昨今の日本文学研究の「グローバル」は、まだそういう人々には門戸を閉ざしています。もうそういう時代ではない。実際に川端康成、大江健三郎がノーベル文学賞をもらっている。日本文学がノーベル賞をもらったことは喜ばしいことですが、しかし、考えてみるとそれは日本語でもらったのではないのではないかと。川端さんも大江さんも英訳、仏訳された作品で評価されたのではないで

しょうか。つまり、日本文学は外国人にどのような印象を与えているかということは外国語訳で読まないといけないのではないかと。そういう意味で、海外にいる日本語を読めない日本文学愛好家にも、私たちの研究成果を届けることで初めて本当の「グローバル化」になるのではないと思うのです。

### 50/50の国際交流のためにすること

そのためには、私たち自身が英語、あるいはフランス語、今の国際語は英語ですから、まずは英語で発信していくことが大事だと思います。私自身もそうですが、そして私より少し後の世代までは、大学で日本文学や日本史を専攻するという選択をした時には、外国に行くということはあきらめていました。縁がない、外国旅行には縁なき衆生だと思っていました。英文学とかフランス文学、あるいは西洋史を研究する人たちは、国費留学生などになって海外に行くことは普通でした。けれども日本文学や日本史を選択した時には、外国に勉強に行くなどということは全く考えもしなかった。日本語での勉強ばかりしていたわけです。ところが交通網が発達して海外との往来が簡単になったことで、日本の古典の場合ですと、実は海外に日本の貴重な古典籍がたくさんあることがわかってきた。大英博物館や大英図書館などは以前から有名ですが、それ以外にも欧米の有名な大学には寄贈された日本典籍の立派なコレクションがあるのです。日本にない本も海外にあったりする。国文学研究資料館でも30年ほど前から、そういった古典籍の調査をやってきました。日本文学の古典を勉強するためにも海外に行く必要が出てきた。そういうことで国際

交流が盛んになってきたのです。

これまでの海外での調査、研究は日本語のよくわかる研究者を相手に共同研究をするに留まっていたのですが、これからは日本語がわからない日本文学愛好家や日本の歴史に興味のある人々にももっと関心を持ってもらえるよう、我々もきちんと発信していく義務があるのではないかと考えています。国文研では目下、国際共同研究プロジェクトの研究成果を日本語だけでなく英文で、しかも誰でも見ることが出来るオンライン・ジャーナルで発行することを計画しています。そのために、今年になって米国プリンストン大学出身のクリストファー・リーブズさん、またパリ大学出身のディディエ・ダヴァンさんを、教員としてお招きしました。将来は館長にも外国人研究者が就任するようなことになるかもしれませんね(笑)。

### 国文研の仕事

現在バチカン図書館での調査も行っています。「マレガ・プロジェクト」と言いますが、江戸時代の豊後国(大分県)のキリシタン史料で、現在バチカン図書館に所蔵されているものです。キリシタン弾圧・統制に関する膨大な史料です。宗門改めといわれるものなど、「私はキリシタンではありません」という内容の文書ですね。それを戦前に大分地区の司教だったマリオ・マレガ神父が収集し『豊後切支丹史料集』『続豊後切支丹史料集』という2冊の史料集にまとめて、その史料は1953年にマレガ神父によってバチカンに送られ、バチカン図書館で保管されてきました。

2011年にバチカン図書館で1万点に及ぶこの史料集の原史料が発見されたのですが、それ

### 今西祐一郎氏

人間文化研究機構 国文学研究資料館 館長。1972年(昭和47年)品川区戸越に創設された我が国初の文系大学共同利用機関 国文学研究資料館。2008年(平成20年)、立川に移転直後より4年を任期として館長に就任。その後2度の再選で本年最終の8年目を迎えている。

らはバチカン図書館では読める人がいないので、それまで在イタリアの日本古典籍調査を行っていた国文研に手伝ってほしいかという調査協力の依頼がきたわけです。日本側では私たちと国立歴史民俗博物館、東京大学史料編纂所、大分県立先哲史料館が参加し、代表機関は国文研が務めています。これは海外で大きなニュースになりました、なんとと言ってもバチカンですからね。

在海外の資料としては、一昨年まで主としてオランダにあるシーボルト父子の資料調査もしてきましたが、シーボルトにしてもバチカンにしても、現時点では調査も成果報告も日本語で進めていて、対等に外国語でやりあっているわけではありません。でもこれからの研究者は、英語で最低のことは言える能力がないといけませんね。もうずいぶん前に、上野千鶴子さんが『国境 お構いなし』(2003年、朝日新聞社刊)というエッセー集の中で、「語学が嫌だから、日本史や日本文学を選んだ、と言っている時代は終わった」と書いています。自分のことは棚に上げて、その通りだと思います。

以前、理系の人の前で話した時に、「文系に来る人間はまず数学ができないか、あるいは嫌だから文系を専攻します。文系の中でも語学ができないのが日本文学と日本歴史をやるのです。私たちはそういう最低の人間です」と自虐的な自己紹介をして拍手をもらったことがあります(笑)。自慢にはなりません。

でも、現在、日本文学や日本史の研究者は欧米研究の人と同じくらい、あるいはそれ以上、海外に行っているのではないかと思います。私たちは必要とされているのです。図書館にこんな本がある、読んでほしいか、見て調べてほしいか。

しかし、今は日本文学がブームというほどではないし、海外の日本文学研究者、中でも古典の研究者がそんなに多いわけでもありません。むしろひと頃より減っているかもしれません。日本の退潮は研究の世界だけではなく、ファッションモデルに関してもそうらしい。少し前、そのことを指摘した新聞記事を読みました。国の経済が発展している時は、モデル業界も盛り上がる。パリコレなどで活躍する「スーパーモデ

ルの勢力図は国際経済の縮図」なのだそうです。日本経済は減速中で、中国、東欧、旧ソ連など新興のBRICs諸国の勢いがすごい。そして、日本のモデルはというと、雑誌モデルからタレント、女優になるという日本固有のルート、海外の厳しい環境で勝負しない構造ができてきているというのです。さらにおもしろかったのは「国内で活躍するモデルの多くは身長175cm以下なので世界では通用しにくい」という指摘でした。まさに「かわいい」に向けたガラパゴス化です。

研究の世界にも通じる現象のような気がして、興味深い新聞記事でした。「日本人モデル 世界は遠く—「かわいい」偏重進むガラパゴス化」日本経済新聞3月26日夕刊。

また、大学生が海外に留学しながら、新入社員が海外で働きたいとは思わない、ということが、最近話題になっています。内向きということは、日本が快適だということでしょう。海外がテロなどで怖いということよりも、やはり国内が快適。

内向きという点では、江戸時代がそうでした。鎖国ですね。新聞記事に指摘されていたように、内向きの時代に生まれる文化はガラパゴス化します。ものすごく優美繊細に発展するけれども、他の文化との互換性に乏しい。それこそが魅力だとも言えるのですが、日本は豊かになりました、しかし過剰に、あるいは偏って豊かな文明はやがて滅びるのです。歴史が物語っています。「きれい」とか「かわいい」とか、爛熟した文化の表れだと思います。でも爛熟ですから腐る一歩手前です。

江戸時代、アメリカに脅かされて明治維新でそれまでの文化を担ってきた人がほとんど没落しました。薩摩や長州の地方人が江戸へ出てきて、明治政府を作って、それで日本は救われたわけです。中国も、王朝が貴族化して爛熟しては滅びて新王朝が起こるとい歴史を繰り返してきました。

政治家は困るかもしれないけれど、文化はそういう時にえもいわれぬ美的達成をなしとげます。それをもてはやすのはちょっと無責任でも



ありますが。

### 鉄心斎文庫のこと

国文研にとって今年になっての特筆すべき出来事は、伊勢物語コレクション「鉄心斎文庫」を寄贈いただいたことです。これは個人のコレクションで、小田原で鉄心斎文庫伊勢物語文華館を設置しておられた芦澤美佐子氏が、ご主人の故芦澤新二氏と長年かけて収集された世界最大の伊勢物語コレクションです。『伊勢物語』の伝本、注釈書、カルタ、屏風など関連資料千点余り。評価額は8億円にのぼります。大きな個人コレクションは少なくありませんが、一つの作品だけに的を絞ったコレクションで、こんなに膨大なコレクションは、日本にはありませんし、おそらく世界にもないでしょう。

国文研では立川への移転以前、まだ品川の戸越にあったころ、その蔵書の一部を拝借して「伊勢物語展」を開催したこともありますが、今年度からはその鉄心斎文庫の共同研究を開始し、来年度には「鉄心斎文庫伊勢物語展」を複数回にわたって開催する予定です。そして、現在、国文研で展開中の人文系唯一の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」においても、その画像をインターネットで世界に向けて公開していきます。それは大学共同利用機関としての国文研にふさわしい事業になると確信しています。

# 日本相撲界の トップ登場!

八角理事長 × 立飛HD 村山社長

45分という限られた時間でしたが、とても楽しいお話でした。掲載しきれず残念です。

【両国国技館 応接室】

うかがっていいのだろうかと思っはいるのですが(笑)。

**八角** いえいえ。まあ、役職に就く前は、相撲ブームでしたし、年間に3回も先発で巡業に行ったことがありますよ。やめたばかりの頃ですね。親方衆というのは、そうやってひとつひとつ経験してきているからこそ、いろいろなことが言えるようになるんですね。

——では先発の大変さとか、よくご存知でいらっしゃる。

**八角** ええ、外でやるのは雨などの対応が大変ですよ。私がまだ若い頃でしたが、奄美地方の島で巡業した時などは、大雨が降ってきて、相撲とるのはいいけれども、ちゃんも何もできないという状態で、それこそ、早くとれ、早くとれと大変でしたよ。島ですから船の時間もありません。これは聞いた話ですが、師匠の北の富士関もよくそういうことがあったらしく、雨が降ってきたら横綱の土俵入りも早くしたいと土俵に上がったら、向こうにも大鵬さんが上がってきて、二人で土俵に上がっちゃったって。そういう話もありますよ(笑)。昔はそういうのどかな時代ですからね(笑)。

——立川で巡業をされる意味ってどうなんですか？

**村山** 聞いている話では、国技館と立川というこの距離で、巡業というのは全然考えていなかったということでした。でも両国まで1時間かからない立川でも、国技館まで行かれる方というのは意外に少ないです。ですから今回の巡業の話をしたら、皆さんもう大歓迎で。

**八角** やっぱ近くても、「国技館へ、さあ行くぞ」とはなかなかならないんですね。ところが地元でやるなら、じゃあ行くかと。そういう

人が多くかもしれないですね。

——国技館でお相撲さんに声をかけるのはちょっとできないですが、巡業だと…。

**八角** ええ、巡業だと気楽だと思いますよ。今の力士というのは、非常にその点は偉いと思います。私たちの時代はね、ファンサービスということはまるっきりなかった。力士は土俵で相撲とればいいんだというような考えだだと思いますね。ですから今の力士には頭が下がりますよ。立派だと思いますね。

**八角** 誰かな？

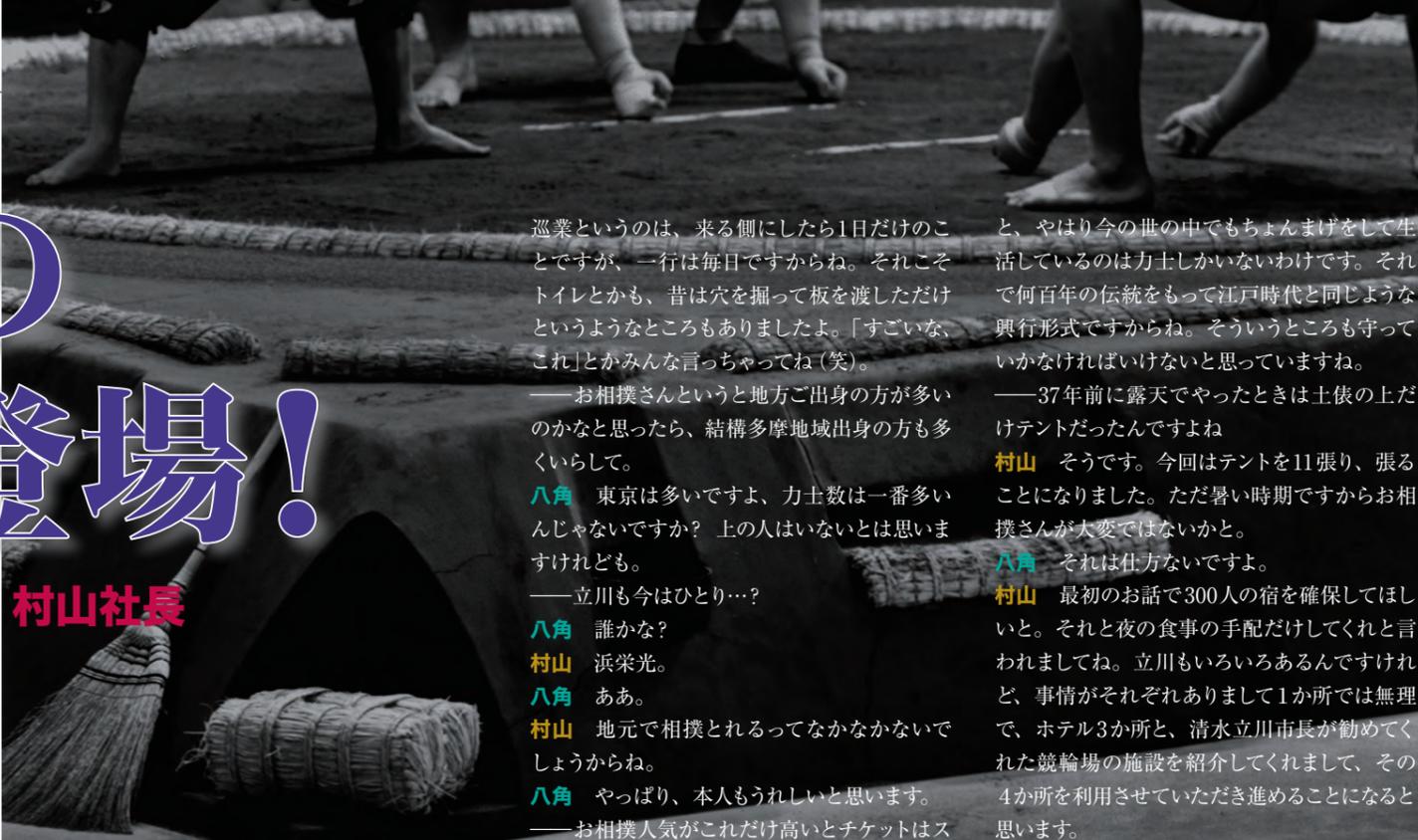
**村山** 浜栄光。

**八角** ああ。

**村山** 地元で相撲とれるってなかなかないでしょうからね。

**八角** やっぱ、本人もうれしいと思います。

——お相撲人気がこれだけ高いとチケットはス



イスイックと売れるだろうとは思っていましたが、まさかこんなに早く…。

**八角** 私もびっくりしましたよ。1日で完売なんというの。

**村山** 夕方の段階で完売したと聞いたので、お!っと思いましたね。実は相撲協会さんに巡業をお願いしているんだと、去年から話していました。その時から立川のみなさんがとても楽しみにして下さっていましたので、チラシを出した瞬間に火がついたという感じでしょうか。今回うまくいったら、2020年にもまた今度は、2~3日お願いしたいと思っています。相撲は他のスポーツとはちょっと違うと思うんですけど、これだけグローバル化されたものって他にありませんから、ちょうどオリンピックにあわせて立川でできた相当数の外国の方が来るのかなと思っています。なんとかまだ4年後ではあります。

**八角** そうですね、協会としても国技館で何かという話もあるのですが、巡業というのは大事なことです。本場所との兼ね合いがどうかということ、また話していかなければならないところなのですが。

**村山** 5月場所にはお客様と3回国技館に来ましたが、2階は外国人の方が多いですね。

**八角** 多いですよ。うちの部屋などは国技館から近いんですけども、毎朝見学に来ますよ。入りきれないので予約制にしています。それだけ海外の方には興味深いということですね。

**村山** 日本人以上に相撲文化に対して興味があるようですね。

**八角** やっぱ日本の伝統文化として観ていますからね、日本に来て何が日本のかと言われる

と、やはり今の世の中でもちゃんまげをして生活しているのは力士しかいないわけです。それで何百年の伝統をもって江戸時代と同じような興行形式ですからね。そういうところも守っていかなければいけないと思っていますね。

——37年前に露天でやったときは土俵の上だけテントだったんですよ

**村山** そうです。今回はテントを11張り、張ることになりました。ただ暑い時期ですからお相撲さんが大変ではないかと。

**八角** それは仕方ないですよ。

**村山** 最初のお話で300人の宿を確保してほしいと。それと夜の食事の手配だけしてくれと言われてましてね。立川もいろいろあるんですけど、事情がそれぞれありまして1か所では無理で、ホテル3か所と、清水立川市長が勧めてくれた競輪場の施設を紹介してくれまして、その4か所を利用していただき進めることになると思います。

**八角** ホテルも泊まる所はあるけれど昔の旅館のように食事までというとなかなか。またたくさん食べるし、何を出していいんだろうと考えちゃいますよね。

**村山** ホテル側がお相撲さんを泊めたことがないので、ベッドがどうなんだろうというようないろいろな心配をしていましたね。

**八角** まあ、どこへ行っても泊まるわけですから、お相撲さんは昔から自分のいいように使わうってうかな、その辺は慣れてますよね。昔は旅館で大広間に雑魚寝っていうのが定番でした。私たちの時代には、旅館に着くともう大広間に布団が敷いてあるんですよ。早く布団を確保しないと。布団は人数分あるんですけども、なんか足りなくなってしまうんです。

**村山** (笑)

**八角** だからいつも早く行って、荷物を布団にボンとおいて確保しておかないと。昔は三役は1人部屋、あとは閑取衆で2人だったり3人だったり。先発の時はいろいろ心配なこともありまして。土俵が崩れないかと。

——土俵が崩れる？

**八角** それも先発の一番大事な仕事です。土俵だけはキチッとしておかないと、良い土俵ができて、良い稽古や取り組みが生まれ、お客様が喜ぶ。まさに土俵の充実です。

**村山** 土俵は今回こだわりましてね、本場所と同じ土俵を作ろうということになりまして。巡業は地元の土でいいということで、それなら「ららほーと」という商業施設を作った時の土が結構ありましてね。それを使おうと担当の方に見ていただいたら大丈夫だということですね。ただ砂利が入っているんで、それをふるってくれて言われました。結局60トンくらい使うんですね。

その砂利ふるいをボランティアで社員にやらせようと思ったら、ふざけるなど言われまして(笑)。

**八角** (笑)

**村山** 結局ふるうだけで結構な金額、お金の話で恐縮ですが。

**八角** 本場所以上の土俵だ!

**村山** なかなか土俵を作るところなんて見られませんから、地域の子どもさんに見ていただいて、その段階から盛り上げていきたいなと思っ



村山正通氏 株式会社立飛ホールディングス代表取締役社長

ています。体育館でする巡業だと箱ものの上に土を乗けて土俵を作ると聞いて、せっかく37年ぶりにやるのですから、それも野外です。しっ

かり土俵から作っていきなと思っはいるので、

**八角** ちょっと前からやらないと乾かないですからね。まあ、呼び出しさんが土俵を作るプロですから、大丈夫でしょう!

——村山社長は茨城県ご出身で。

**村山** 私はここ数年ずっと稀勢の里を応援して

いて…。

**八角** そのころには綱を締めていてくれるとい

いのですがね。

**村山** 名古屋場所が終わって立川に来る時そ

うなっていてくれれば、もう言うことないですよ

ね。  
**八角** 増設して席を作って(笑)  
**村山** 本当にそうですね。  
——楽しみですね。今日はありがとうございます。

八角信芳氏 公益財団法人 日本相撲協会理事 第六十一代横綱 北勝海

えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。	
今月は 富士見町・緑町・泉町・西砂町・上砂町・砂川町・柏町・幸町・若葉町・栄町のお店です。	
富士見町	ふじみ食堂……………523-4791
緑町	国立国語研究所……………540-4300
	国立極地研究所……………512-0652
	国文学研究資料館……………050-5533-2900
	南極・北極科学館……………512-0910
泉町	花みどり文化センター……………528-1751
	昭和天皇記念館……………540-0429
西砂町	インヴォラーレ・ルーデンス 立川ルーデンステナスクラブ 525-9677
	blooming bloomy 555ぼーと立川立飛店 548-1215
	東京消防庁 立川消防署……………526-0119
	Café はあもい……………512-7810
	パティスリー プルミエール 531-4835
上砂町	砂川庵 甚五郎……………531-6788
	西砂歯科医院……………531-4129
	B3+ギャラリーウェルメイド 538-7250
	Fresh shop スーパーはしもと 536-2331
	ファーマーズセンター みの一れ立川 538-7227
	JA 経済センター 立川店……………536-1824
	JA 東京みどり 立川支店……………536-1821
	陶工房 己流庵……………537-6102
	たましん 砂川支店……………535-4411
	珈琲豆焙煎工房 まめ吉……………535-1070
BREAD & Sweets マニシェール 537-2202	
砂川町	café de La Boum……………534-6541
	山梨中央銀行 立川支店……………536-0871
	株式会社 セレミア……………534-1111
	超こつてりーめん パワー軒 535-1665
	ペーカリー リオンドール……………535-4882
	(有) まつい測量……………534-4411
	ピーコック 玉川上水店……………538-3861
	菅家医院……………536-4602
	立川農産物直売所……………536-2439
	いなげや 立川幸店……………537-1820
柏町	たましん 幸町支店……………535-5311
	中国料理 SUNFUJI……………536-3813
	西武信用金庫 幸町支店……………537-3101
	お米屋さん 大黒屋……………536-0851
	(株) 松浦商事……………536-6001
	江戸前・富山の魚と酒 緑寿司 536-4800
	至誠キートンホーム……………538-2323
	とんかつ・割烹 かつ亭……………535-4611
	ドッツ製法ハムソーセージゼーホフ工房 535-5009
	和洋菓子 たちばな……………537-0347
BS タイヤショップ 佐藤商会 537-0912	
幸町	在宅療養支援診療所 立川在宅ケアクリニック 534-6964
	古楽の小屋 ロバハウス……………536-7266
	レストラン サラ……………534-0602
	浅見内科医院……………537-0918
	スーパー ヤオコー……………538-1711
	ひとひとつ……………507-7352
	まんまる助産院 ひまわりハウス 534-9877
	ありた整骨院……………534-1622
	カフェ タイニーガーデン……………507-1346
	カフェ・レストラン てくたく 536-5788
若葉町	たましん 栄町支店……………536-9711
	いなげや 立川栄町店……………523-7201
	ニュースサービス日経 立川中央 522-4507
	チーズ王国 本社……………513-4101
	高橋酒店……………522-4479

**jorakugajo**  
真如苑提供番組「常楽我浄」

**スカパー！：529ch**  
スカパー！で放送の常楽我浄はスマートフォンアプリ「ivy」（無料）で視聴できます。

**J:COM 多摩：111ch**  
放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

## 街の話題

### 田村聡さん、エベレスト登頂！

6月8日(水)、錦町にお住いの田村聡さんがエベレスト登頂の報告に、清水庄平立川市長を訪ねました。手にはエベレスト山頂で撮った登頂記念の写真。実はこの中に一緒に登頂を果たした立川市のキャラクター「くるりん」のステッカーとタオルが写っています。清水市長は「一緒にエベレストのてっぺんに行ってきたんですね。いや、これはありがたいと、とても喜ばれていました。生まれつき聴覚に障害をもつ田村聡さん。雪崩や落石などの音が聞こえないリスクがありますが、少年の頃から山に親しんできたので、今は目で見て山の状況を判断できるようになったそうです。えくてびあんでは2002年に田村さんが世界一過酷な冒険ラリー、通称「パリダカ」に二輪出場した直後や、2007年8201mのチョ・オユー登頂成功の後など何度も紙面にご登場いただきました。常に世界最高峰チョモランマへの挑戦を胸に、訓練と遠征資金づくりに取り組まれていました。昨年、一昨年と過去2回の挑戦は悪天候やネパールの地震で断念、この度3度目で登頂成功となりました。お友達の支援があり、天候も良く、風も弱いという好条件に恵まれたこと、いろいろトラブルはあったそうですが、諦めず努力したことで成功につながったとお話しくださいました。

聴覚障害者のエベレスト登頂は田村さんが初となります。チャレンジし続ける田村さんの姿は、立川市民はもちろん、世界中のたくさんの人に勇気を与えることでしょ。



えくてびあん 2002年5/6月号

### 土俵作り 見学できます

ららぽーと隣で行われる大相撲夏巡業 立川立飛場所。この土俵作りを見学することができます。日時は8月1日(月)、2日(火)。呼び出しさんたちが来て、ベタベタこつきしたり形を整えたり。8月3日には諏訪神社の高橋宮司による神事が行われ、土俵の無事を祈念します。どなたでもこの様子をご覧になることができます。見学の際は、現場にいる関係者の指示にしたがって、危険のないようご覧ください。

### レインボープールにご招待！

国営昭和記念公園のレインボープールがオープンしました。えくてびあんでは読者の皆さまの中から10組20名様に、同プール「大人ペア招待券」をプレゼント。ご希望の方は、ハガキにご住所、お名前、ご連絡先、えくてびあん今号の読後感想をお書きの上、〒190-0023 立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4階 月刊えくてびあん プール招待券係までお送りください。締切は7月31日(消印有効)、応募多数の場合は抽選とし、チケットの発送をもって当選のお知らせとさせていただきます。

なお「プール招待券」の有効期限は平成28年9月4日(日)までで、8月13日～8月15日はご利用できません。



田村聡さん(左)、清水庄平市長(右)と(市長室にて)



今回使用した登山グッズを披露



市長にプレゼントされた写真 山頂は狭くてとても怖かったそう



えくてびあん 2008年4月号

### 極地研の一般公開

緑町にある国立極地研究所では、8月6日(土)10:00～16:00の間、館内を一般公開します。毎年たくさんの親子連れが訪れるこの企画。今年も夏休みの1日、南極や北極の不思議に触れてみませんか？ 場所は国立極地研究所 立川市緑町10-3内です。多摩モノレール高松駅から徒歩で5分。立川駅から歩けます。

主なプログラムは、低温室など普段は見ることのできない研究施設をめぐる探検ツアー(事前申込が必要です)、南極・昭和基地からの生中継。もうお馴染みの「サイエンスカフェ」などです。事前申込などは極地研のHP、特設サイトでご確認ください。

6日は立川駅北口サンサンロードで「よいとまつり」が予定されています。にぎやかな立川になりそうですね。



一般公開 昨年の様子



南極の水も触れちゃう

### 中高生南極北極科学コンテスト 募集開始です

国立極地研究所では「第13回中高生南極北極科学コンテスト」を行っています。次代を担う中学生・高校生から、極域研究の提案を募集するもので、南極科学賞、北極科学賞に輝いた提案は、観測隊や研究者が実際に調査、実験を行います。応募資格は中学校・高等学校・高等専門学校(3年生まで)・中等教育学校・特別支援学校の生徒であること。応募締切は平成28年9月5日(月)。詳細はコンテストのウェブサイトをご覧ください。 <http://www.nipr.ac.jp/juniorcontest/>

### ヤギさん、赤ちゃん生まれました

立飛みどり地区のヤギさん、6月21日と24日に赤ちゃんが生まれました。名前など新たな情報は、随時フェンスに貼られます。みなさん、かわいがってくださいね！



お母さんは「ぶどう」 元気に群れの中で遊んでいます



お母さんは「ダイヤ」 お母さんといつも一緒にいます

### ロータリー家族展覧会

東京立川ロータリークラブ・東京立川こぶしロータリークラブの会員・家族による合同作品展が、今年もRISURUホール3階ギャラリーで開催されました。素人離れた力作ぞろいで、毎年楽しませていただいています。昨年はこの展覧会で押し花作家の山崎房枝さんの作品に出会いました。写真や油絵、篆刻、トールペイント、布の手作り製品など、え？ あの方がこういうものを作るんだ！ という新たな発見もあるこの展覧会。来年も楽しみです。



### 表紙の人

赤川 BONZE さん、さとうその子さん  
赤川創一さん、玲奈さん、淳平くん  
高岡心彩ちゃん、晴琉くん

市内あちこちで見かける銅版作品。立川駅北口のペDESTリアンデッキにある模型飛行機を手にした少年の像『風に向かって』もBONZEさんの作品。幸学習館前にあるセロ弾きの像もそう。今月は銅版作家 赤川BONZEさんご一家の登場です。奥さまのさとうそのご子さんはオブジェ作家。お二人とも立川を代表するアーティストです。えくてびあんとは初代編集長時代からのお付き合い。息子さんの創一さんご一家が転勤で立川を離れてしまおうとのおっしやるので、急いで撮影させていただきました。赤川さんご夫妻は、お子さんたちをこのハウスで育てました。お孫さんたちもハウスの自由な空気に触れてノビノビ育っています。心彩ちゃんと晴琉くんは赤川さんのお嬢さん美菜子さんのお子さんですが、実はえくてびあん5月号の表紙にご登場いただいた高岡家のお孫さん。従弟の淳平くんと大の仲良し。淳平くん、引っ越しても時々ハウスに帰ってきてね！

### かたこと

◆赤川家。淳平くんと高岡晴琉くんは同い年の3歳です。BONZEさんに抱かれているのが淳平くん。その子さんに抱かれているのが晴琉くんです。真ん中に立っているのが高岡心彩ちゃん。みんなが仲良し、みんなが元気なご一家でした◆「かわいい」はすでにフランス語になっているそうです。国文研の今西館長の説によれば、爛熟した日本文化の象徴なのでしょう。校長先生や警察官をも「かわいい」と形容する時代、「かわいい」の概念はどこまで広がっているのでしょうか。独特なファッションを世界中に広めたきゃりーぱみゅぱみゅさん。「かわいい」の代表は、数年前まで立川の高校生でした。立川ってすごいところですよ◆まさか、八角理事長がフリーペーパーに登場してくださると思ってもいませんでした。ダメ元の取材交渉と思っていたのに、ありがたい限りです◆暑くなります。夏の立川はイベントがいっぱい。心も熱く、みなさんと共にえくてびあんもがんばります！

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑧  
8月号 第35巻 通巻381号

平成28年8月1日発行  
発行 有限会社えくてびあん  
〒190-0023  
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
E-mail message@tamatebakonet.jp  
URL <http://www.tamatebakonet.jp>  
発行人 黒須 環  
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ  
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)  
印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。



## 妖怪空間 ーでそうな場所ー

6月11日(土)有楽町朝日ホールで、人間文化研究機構シンポジウム『妖怪空間 ーでそうな場所ー』が開催されました。基調講演は妖怪の専門家であらっしゃる小松和彦さん。国際日本文化研究センター所長です。「妖怪ウォッチ」のブレイクが示すように、妖怪ブームの勢いはまったく衰える気配がありません。見えない妖怪の姿を描いた水木しげるさんへの追悼も込めて、基調講演では日本の妖怪文化の「豊かさ」を大別して①妖怪の歴史の長さ、②妖怪を描いた絵画の豊富さ、③妖怪種目が驚くほど多いこと、④妖怪の姿かたちの多様さ、⑤かわいらしさの5つの点にまとめました。その後のプレゼンテーションは、文学の立場から国文学研究資料館 教授の齋藤真麻理先生が、民俗学の立場から国立歴史民俗博物館 名誉教授の常光徹先生。常光先生は「学校の怪談」の著者でもあります。最後に民族学の立場から天理大学 教授の安井真奈美先生が、それぞれ「空間」を切り口に妖怪を浮き彫りにしました。いずれのお立場からも共通するのは「境界」ということ。いろいろな意味での「境界」を越えて妖怪はやってくる?

ここではすべてをご紹介できませんが、とても面白いシンポジウムでした。会場は満席、補助席もでていました。人間文化研究機構のシンポジウムについては、立川の方でしたら国文研に行くといろいろなチラシが置いてあります。次回は皆さまもどうぞ参加してみてください。(詳しい内容はえてびあんのブログ <http://ecoutez.exblog.jp/> にあります)



『付喪神絵巻』は御伽草子



パネルディスカッションの様子



右が国文研の齋藤真麻理先生

## レキミンの「新収蔵品展示」

富士見町にある立川市歴史民俗資料館では、平成27年度に市民のみなさんや立川に縁のある方々から寄贈いただいた資料約350点の中から一部を、5月24日から6月26日の間一般公開していました。併せて4月21日に一般公開が始まった古民家園の「須崎家内蔵」に関する民俗資料も展示され、貴重な品々に江戸時代の砂川の豊かさを改めて感じさせられました。今後資料の整理が進められると、また他の資料も見せていただけたと思います。楽しみです。



村野醸造所で作られた鏡割りで使用される四斗樽(70リットル)に貼られていた醤油ラベル「キッコークヤス」の商号と、大豆と小麦がモチーフになった絵柄



中武デパートで使われていたレジスター



展示の様子



須崎家内蔵の資料にあつた袴